

2019年6月5日[水] 10:00~14:30 / 学術総合センター



統計数理研究所 オープンハウス

統計数理研究所は創立75周年を迎えました

統計数理研究所
75周年記念事業



統計数理研究所100周年を目指し、つぎの25年に向けて

統計数理研究所 創立75周年記念式典

2019年6月5日[水] 15:00~18:00 / 一橋講堂

■ 会場案内・スケジュール (オープンハウス2019 / 創立75周年記念式典)	p.1~p.2
■ オープンハウス2019 プログラム	p.3
■ 基幹研究系紹介 ● モデリング研究系 ● データ科学研究系 ● 数理・推論研究系	p.4~p.6
■ NOE型研究センター紹介 ● リスク解析戦略研究センター ● 統計的機械学習研究センター ● ものづくりデータ科学研究センター ● 医療健康データ科学研究センター	p.7
■ 創立75周年記念式典 プログラム	p.8
■ 統計数理研究所の活動及び計算機展示室の紹介 ● 産業界との連携 ● 統計思考力育成事業: 公開講座 ● 分散コンピュータ博物館 / 情報処理技術遺産	p.9~p.10
■ 立川市の紹介	p.11

会場案内図

オープンハウス2019: ① チュートリアル特別講座
 創立75周年記念式典: ⑥ 記念式典、記念シンポジウム



2階



1階

タイムテーブル

オープンハウス2019

	2階			1階	
	一橋講堂	会議室	中会議場	特別会議室	
10:00	① チュートリアル特別講座「深層学習の理論と発展」 10:00-12:30 10:00-10:10 挨拶 椿 広計 (統計数理研究所長) 10:10-11:00 「人工知能の歴史、発展、社会への影響」 甘利 俊一 (理化学研究所) 11:00-11:10 休憩 11:10-11:50 「深層生成モデルによる統計的推論」 福水 健次 (統計数理研究所) 11:50-12:30 「深層学習の原理を明らかにする理論の試み」 今泉 允聡 (統計数理研究所)	② 統計よろず相談室 10:30-12:30 ※ 事前申込みされた方のみとさせていただきます。	研究内容ポスター展示会場前 ↓		
12:00					
13:00				③ 研究内容ポスター展示 12:30-18:00	④ 研究所活動紹介ポスター展示 12:30-18:00
14:00		② 統計よろず相談室 13:30-14:30 ※ 事前申込みされた方のみとさせていただきます。	ポスター説明 (13:30-14:30)		
14:30					

創立75周年記念式典

	2階		
	一橋講堂	中会議場	
15:00	⑥ 記念式典、記念シンポジウム 15:00-18:00 15:00-15:25 創立75周年記念式典 挨拶 椿 広計 (統計数理研究所長) 藤井 良一 (情報・システム研究機構長) 祝辞 磯谷 桂介 (文部科学省 研究振興局長) 岩崎 学 (統計関連学会連合 理事長) 長谷川 真理子 (総合研究大学院大学長) 15:25-15:30 休憩 15:30-16:10 記念講演「“シン・ニホン” AI x データ時代における日本の再生と人材育成」 安宅 和人 (慶應義塾大学環境情報学部 教授、ヤフー株式会社 CSO) 16:10-16:20 休憩 16:20-18:00 パネル討論「データ社会の近未来予測図 ~25年後に開くタイムカプセル~」 パネリスト7名、モデレータ1名 ※ p.8 参照	③ 研究内容ポスター展示	④ 研究所活動紹介ポスター展示
16:00			
17:00			
18:00			



オープンハウス 2019

① チュートリアル特別講座：深層学習の理論と発展 10:00～12:30 2階 一橋講堂

10:00-10:10 挨拶 椿 広計 (統計数理研究所長)

10:10-11:00 「人工知能の歴史、発展、社会への影響」 甘利 俊一 (理化学研究所)
人工知能が大きく進展し、社会や文明を変えるともいわれています。人工知能の歴史、仕組み、さらに将来を眺望するとともに、脳とのかかわりを考え、心や文明への影響について語ります。

11:00-11:10 休憩

11:10-11:50 「深層生成モデルによる統計的推論」 福水 健次 (統計数理研究所)
近年、敵対的生成ネットワークや変分オートエンコーダなど、データの生成モデルを深層学習によって学習する方法が大きな注目を集めています。このようなサンプル生成の方法を統計的な推論に利用する研究を紹介し今後の展望について述べます。

11:50-12:30 「深層学習の原理を明らかにする理論の試み」 今泉 允聡 (統計数理研究所)
深層学習は多くの領域で実用され、その高い性能が実証されていますが、なぜその性能を発揮できるのか、原理を説明できる理論は未だ発展途上です。本講演では、統計学や最適化の理論の観点から、深層学習の原理を明らかにする試みを紹介しします。

② 統計よろず相談室 (※ 事前予約の方のみ) 10:30～12:30 / 13:30～14:30 2階 会議室

統計に関わるさまざまなご質問・ご相談に1件20分程度でお答えします。質問のレベルは問いません。

【回答者】 清水 邦夫 (統計数理研究所 統計思考院特命教授)
柏木 宣久 (統計数理研究所 統計思考院特命教授)
池森 俊文 (統計数理研究所 統計思考院特命教授)
馬場 康維 (統計数理研究所 名誉教授)
小森 理 (統計数理研究所 客員准教授)
高橋 啓 (統計数理研究所 客員准教授)

③ 研究内容ポスター展示 12:30～18:00 (ポスター説明時間 13:30～14:30) 2階 中会議場

全教員・特任研究員および大学院生による研究活動紹介

■ ポスター説明 / 各研究者・学生がポスターの前で内容を説明します。

④ 研究所活動紹介ポスター展示 12:30～18:00 2階 中会議場前

統計数理研究所の研究や事業を紹介しします。

⑤ 総合研究大学院大学 複合科学研究科 統計科学専攻 大学院説明会 12:30～13:30 1階 特別会議室

対象：進学 (統計科学専攻)に関心のある大学生・大学院生・社会人

◎ 2019年度の入試ガイダンス ◎ 博士課程 (5年一貫制、3年次編入学)カリキュラムの説明
◎ 学生による学生生活と研究テーマの紹介 ◎ 質疑応答

モデリング研究系

多数の要因に関連する現象の構造をモデル化し、モデルに基づいて統計的推論を行う方法を研究します。モデリングに基づく予測と制御、複雑なシステムのモデリング、データ同化によるモデリングを通じて、分野を横断するモデリングの知の発展に寄与することを目指します。

■ 予測制御グループ

時間的・空間的に変動する現象に関わるデータ解析やモデリングを通じて、現象の予測や制御・意思決定、科学的発見の観点から有効に機能する統計モデルの開発・評価に取り組みます。解析の障害となる欠測や検出率変化など、データの時間的・空間的な不完全性、不規則性、不均一性等の諸制約、および先見情報を反映したモデリングの研究を進めます。

研究教育職員 研究テーマ

川崎 能典 ● 平滑化事前分布による時系列モデリング ● 高頻度観測時系列からの情報抽出と予測
宮里 義彦 ● 逆最適化に基づく非線形 H ∞ 制御の研究 ● 適応型ゲインスケジューリング制御の研究
● 反復学習制御の研究
吉本 敦 ● 再生可能資源に対する最適管理モデルの構築 ● 最適確率制御モデルによる資源管理リスク分析
● 持続的森林資源管理に関する数理経済分析
庄 建倉 ● 不完全情報の点過程推論 ● 統計地震学 ● 統計的モデリングと予測：理論と応用
瀧澤 由美 ● 円偏波を用いたマイクロ波センシング方式の研究と環境・資源計測への適用
● 神経系による時空間知覚のモデルと解析
三分一 史和 ● 生体イメージング時空間データ解析 ● 神経情報学

■ 複雑構造モデリンググループ

非線形システムや高次元のネットワークなど、複雑なシステムの統計数理的モデリングを行い、それを実社会に応用する研究を行います。その手段として、モンテカルロ法などの確率的シミュレーションの方法、離散数学および計算機科学に関連する諸問題を考察します。

研究教育職員 研究テーマ

松井 知子 ● 時空間モデリング ● 都市インテリジェンス ● 音声・画像処理
伊庭 幸人 ● モンテカルロ法のアルゴリズムの開発と応用 ● レイアウトのサンプリングとその応用
● 状態空間モデル・階層ベイズモデルによるデータ解析
南 和宏 ● プライバシー保護データバプリッシング ● 多次元時系列データ及び生体データの匿名化 ● 応用暗号技術
小山 慎介 ● 脳神経データ解析 ● 確率推論の近似手法 ● 情報物理学
日野 英逸 ● 機械学習・統計アルゴリズムの幾何学的解析 ● 機械学習・数理モデル化・統計的データ解析手法の開発
● 諸科学及び産業応用のための統計的データ解析
早水 桃子 ● 距離データからグラフ構造を抽出するための離散幾何学の研究
● グラフを用いた生物学的現象の構造モデリング

■ データ同化グループ

大量の観測データに基づいた超高次元状態変数の逐次ベイズ推定など、数値シミュレーションと観測・実験データをつなぐ基盤技術であるデータ同化の研究を推進します。各応用分野における計算アルゴリズムの開発や超高並列計算システムへの実装を通して、リアルタイムに未来予測が可能な次世代シミュレーションモデルを構築することを目指します。

研究教育職員 研究テーマ

上野 玄太 ● 地球科学におけるデータ同化システムの開発
中野 慎也 ● 高次元システムモデルへのデータ同化手法の開発・応用 ● 状態空間モデルに基づくデータ解析
野村 俊一 ● 統計的地震予測モデルの開発 ● 健康管理情報のデータマイニング ● 保険数理モデルの開発

データ科学研究系

不確実性と情報の不完全性に対処するためのデータ設計方法、証拠に基づく実践のための計量的方法、およびこれらの方法に即応したデータ解析方法、さらに対象現象に潜在する構造を観測データから推測する方法の研究を行います。

■ 調査科学グループ

調査法をはじめとした多様な条件・環境下での統計データ収集法の設計と、収集デザインに即した統計的推論・解析法の研究・開発、ならびにそれらの応用に関する研究を進めます。データの取得法と解析法の研究に取り組むだけでなく、さまざまな領域における複雑な現象の社会調査法等による解明に資する実用的研究を目指します。

研究教育職員	研究テーマ
吉野 諒三	● 国際比較調査方法論の開発 ● 計量的文明論のための「データの科学」 ● 個と集団のダイナミズムの認知科学的研究
前田 忠彦	● 社会調査法と解析法の研究 ● 日本人の国民性の統計的研究 ● サンプル理論の研究と応用
朴 堯星	● 構造方程式モデリングによる自治体職員の心理メカニズム解析 ● 組織と個人の意思決定プロセスのマルチレベル分析

■ 計量科学グループ

これまで測定されてこなかった現象の計量化、また膨大なデータベース等からの効率的な情報抽出を通して、統計的証拠を同一し、評価する研究を進めます。そのための方法、および得られるデータの解析方法の研究・開発を行い、実質科学の諸分野における応用研究に取り組むことにより、証拠に基づく実践的な応用統計数理研究を展開します。

研究教育職員	研究テーマ
山下 智志	● 金融リスクの計量化と制御方法 ● 信用リスクのモデリングと評価法 ● 社会データ構造化の方法論と実証・実装
金藤 浩司	● 連続型寿命分布の研究 ● 環境基準値に関する統計的評価方法の研究
伊藤 陽一	● 医学分野の橋渡し研究における臨床試験方法論 ● 医薬品医療機器の製造販売後の安全性評価に関する方法論 ● 放射線治療における正常組織障害確率のモデリング
船渡川 久伊子	● 経時測定データ解析 ● 自己回帰線形混合効果モデル ● 医学・公衆衛生における生物統計の方法論
野間 久史	● 医学研究における Comparative Effectiveness Research の理論・方法論と応用 ● Precision Medicine の実現を目指した統計数理・機械学習の方法 ● 超高齢社会における持続可能な医療の実現を目指した医療経済・医療経営のデータサイエンスの方法論
清水 信夫	● シンボリックデータ解析 ● クラスタ分析

■ 構造探索グループ

科学の対象である様々な生命・物理・社会現象に対し、その背後にある潜在的「構造」を観測データから推測するための統計科学の研究を行います。機械学習、ベイズ推論、実験計画法、時空間解析等を方法論の中心とし、対象現象におけるミクロ・メゾ・マクロな構造や時空間の動的な構造に関する研究を行います。

研究教育職員	研究テーマ
吉田 亮	● バイオインフォマティクス ● マテリアルズインフォマティクス ● 機械学習
足立 淳	● 分子進化のモデリングと分子系統樹の推定 ● ゲノム構造の比較解析 ● 生命情報学の理論的研究
島谷 健一郎	● 点過程モデルの開発と生物分布データへの応用 ● 生物群集モニタリングデータの空間及び時系列解析 ● 動物行動データの時空間モデリング
Stephen Wu	● ベイジアンモデリング ● 不確実性の定量化 ● 機械学習の応用
村上 大輔	● 時空間回帰モデリングの高度化 ● 空間統計学 ● 都市・環境データ解析

数理・推論研究系

統計科学の基礎数理、統計的学習理論、および統計的推論に必要な最適化と計算アルゴリズムに関する研究を行います。これらを通して、統計数理科学全体の発展に寄与することを目指します。

■ 統計基礎数理グループ

統計科学の基礎理論および数理的根拠に裏打ちされた統計的方法の系統的開発の研究を進めます。特に、データから合理的な推定や決定を行うための推測理論、不確実な現象の確率的モデル化と解析、確率過程論とその統計理論への応用、統計的推論の基礎を支える確率論、ならびにそれらを取りまく基礎数理の研究に取り組みます。

研究教育職員	研究テーマ
栗木 哲	● 確率場の幾何学（チューブ法・オイラー標数法） ● 多変量解析と分布理論（ランダム行列、グラフィカルモデル、分割表）
二宮 嘉行	● 非正則な統計モデルに対する情報量規準の開発 ● 非正則な推定手法を用いたときの情報量規準の開発 ● 相関のある多重検定に対する手法の開発
間野 修平	● 離散確率モデル ● 統計的推論のアルゴリズム ● データ解析への展開
加藤 昇吾	● 方向データ解析のための方法論 ● コピュラ理論の研究 ● 非線形関数を用いた統計的手法
志村 隆彰	● 加法過程の研究 ● 重裾分布の研究 ● 極値理論の研究

■ 学習推論グループ

複雑な現象や機構から得られるデータの情報を自動的に抽出し知識を獲得するための学習・推論の理論と方法の研究を行います。特にデータの確率的構造に関する数理、情報抽出の可能性と限界に関する理論に取り組みます。これらを分野横断的に有効な統計的方法として展開するとともに、実践的研究の推進も目指します。

研究教育職員	研究テーマ
江口 真透	● 統計的学習理論 ● 観察研究のための統計推論 ● ゲノム統計学
福水 健次	● 正定値カーネルによる統計的データ解析 ● 位相的データ解析 ● 深層確率モデルによる統計的推論
藤澤 洋徳	● ロバスト統計 ● 統計的機械学習 ● 生物統計
持橋 大地	● 統計的自然言語処理、計算言語学 ● ベイズ統計的機械学習 ● ノンパラメトリックベイズ法
逸見 昌之	● セミパラメトリック推測の理論と応用 ● 偏りのあるデータに対する統計解析の方法論 ● 情報幾何による統計的推論の研究
坂田 綾香	● スパース推定、行列分解における確率伝搬法 ● ランダム系の統計力学によるモデル選択理論
今泉 允聡	● 関数推定・推論のための統計理論 ● 複雑データのための解析手法 ● 機械学習・深層学習の統計的理論解析

■ 数理最適化グループ

複雑なシステムや現象を解析し予測・制御などの意思決定を行うための大規模数値計算を前提とした推論、およびその基礎となる数値解析、最適化の数理と計算アルゴリズム、離散数学等に関する研究を進めるとともに、社会における課題解決を支えるためこれらの方法論の現実問題への適用に取り組みます。

研究教育職員	研究テーマ
伊藤 聡	● 最適化の理論と計算手法 ● 不確実さのもとでのシステム設計 ● クリンチとエリミネーションの数理
池田 思朗	● 統計的学習理論 ● 統計的信号処理 ● 情報幾何を用いた確率推論の研究
田中 未来	● 最適化問題の構造解析 ● 最適化問題に対する効率の良い解法の開発 ● 最適化手法の諸分野への応用

NOE 型研究センター

■ リスク解析戦略研究センター

地震、金融、環境、資源などの様々なリスクについて、プロジェクト型の研究を推進します。各分野個別のリスク分析手法だけではなく、データ設計やリスク数理などの分野共通の方法論の構築を目指します。さらにリスク解析に関する研究ネットワーク組織を構築することにより、分野横断型のリスク研究コミュニケーションの円滑化を担い、社会の安心と安全に貢献することを目指します。

研究プロジェクト

- データ中心リスク科学基盤整備
- リスク基盤数理
- 環境情報に対する統計解析手法開発
- 資源管理リスク分析
- 金融・保険リスクの計量化と戦略的制御
- 地震予測解析

■ 統計的機械学習研究センター

「機械学習」は、経験やデータに基づいて自動学習を行うシステムに関する研究分野で、データからの推論を扱う統計科学と、アルゴリズムを扱う計算機科学を基盤としています。その応用分野はロボティクス・情報通信・インターネット上のサービス技術などの工学から脳科学・天文学などの自然科学に至るまで広範囲に及びます。本センターは、統計的機械学習 NOE 活動の中核的役割を果たすとともに、統計的機械学習分野のさまざまな研究プロジェクトを国内外の研究者と共同で推進し、価値の高い研究成果を産み出すことを目指しています。

研究プロジェクト

- 情報幾何と機械学習
- カーネル法の理論と応用
- 最適化推論
- スパースモデリングの深化と応用
- メディアデータの統計的解析
- 機械学習を用いたデータ駆動科学の実践
- 都市インテリジェンス研究

■ ものづくりデータ科学研究センター

人口減少・グローバル化・産業構造の変化により、我が国のものづくりは国際的優位性を急速に失いつつあります。さらに、欧米・アジア諸国の国家成長戦略にデータ科学の最新技術が組み込まれ、世界のものづくりは今まさにパラダイムシフトを迎えようとしています。今後益々激化する世界のパワーゲームに対抗するには、他の追随を許さない独自のイノベーションを起こしていく必要があります。機械学習・最適化・ベイズ推論・材料インフォマティクス等を技術面の柱とし、「創造的設計と製造」を実現するための革新的手法を創出する。これが本センターのミッションステートメントです。

研究プロジェクト

- データ駆動型材料開発の基盤技術
- 実験計画に基づくシミュレーション・機械学習の融合
- 転移学習に基づくスモールデータ解析
- 機械学習による物質の表現・学習・生成

■ 医療健康データ科学研究センター

産学官における医療・創薬・ヘルスケア・公衆衛生を担う統計数理・データサイエンス研究を推進します。医学研究の科学的基盤を支える基礎数理・計算機科学から、基礎医学・臨床医学・社会医学の種々の研究領域ごとの応用理論、最先端の人工知能・機械学習・ビッグデータ解析など、最新の医学研究で求められる多様なニーズに応えるための新たなデータサイエンスの基盤作りを目指します。また、医学アカデミアの研究実施体制の強化のための全国規模のネットワーク構築および高度専門統計教育を推進します。

研究プロジェクト

- 医療健康科学基盤数理
- 医療健康データ基盤整備と計算機技術
- 臨床研究・臨床試験とエビデンス統合の方法論
- 機械学習とビッグデータ解析の数理
- 経時データ解析
- マルチモーダル生体信号データの時空間解析



創立75周年記念式典

2階 一橋講堂

記念式典

記念式典 15:00～15:25

- 挨拶** 椿 広計 (統計数理研究所長)
藤井 良一 (情報・システム研究機構長)
- 祝辞** 磯谷 桂介 (文部科学省 研究振興局長)
岩崎 学 (統計関連学会連合 理事長)
長谷川 真理子 (総合研究大学院大学長)

記念シンポジウム

記念講演 15:30～16:10

「“シン・ニホン” AI×データ時代における日本の再生と人材育成」 安宅 和人 (慶應義塾大学環境情報学部教授、ヤフー株式会社 CSO)

日本はここまでのAI×データ戦争で米中に大敗しつつあります。本講演では時代の俯瞰の上で、我が国の置かれた現状を直視すると共に、その背景をAI×データの戦いにおける基本要素、またリソース配分の視点から振り返り、その上で系としてみた日本に必要な取り組みを特に人材育成の視点から議論します。

パネル討論 16:20～18:00

「データ社会の近未来予測図 ～25年後に開くタイムカプセル～」

近未来に迫るデータ社会について、AI、IoT、ビッグデータ、セキュリティ、データサイエンス等の課題を予測し、様々な分野の専門家が協働して方策を探ることを目的として、本パネル討論を開催いたします。会場に金融、製造、報道、教育、研究、大学、産学の各分野から専門家を迎えて討議します。聴衆の皆様には、データ社会の課題とその解決に向けた方策、さらにSDGs(持続可能な開発目標)の理解も深めていただくことが出来れば幸いです。統数研は100周年を目指し、つぎの25年に向けて、新所長とともに新たな歩みを始めました。本パネル討論では、最初に所長による趣旨説明を行います。様々な分野の皆様との協働をより一層深化させる端緒になればと考えております。

パネリスト

- 【金融】** 池森 俊文 (元みずほ第一フィナンシャルテクノロジー株式会社 代表取締役社長)
- 【製造】** 吉野 睦 (株式会社デンソー品質管理部TQM推進室 SQC推進担当次長)
- 【報道】** 辻村 達哉 (一般社団法人共同通信社 編集委員兼論説委員)
- 【教育】** 岩崎 学 (横浜市立大学 データサイエンス学部長 教授)
- 【研究】** 杉山 将 (理化学研究所 AIPセンター長、東京大学 教授)
- 【大学】** 長谷川 真理子 (総合研究大学院大学長)
- 【産学】** 安宅 和人 (慶應義塾大学環境情報学部 教授、ヤフー株式会社 CSO)

モデレータ

樋口 知之 (中央大学理工学部 教授、統計数理研究所 前所長)

■ 司会 伊藤 聡 (統計数理研究所 副所長)

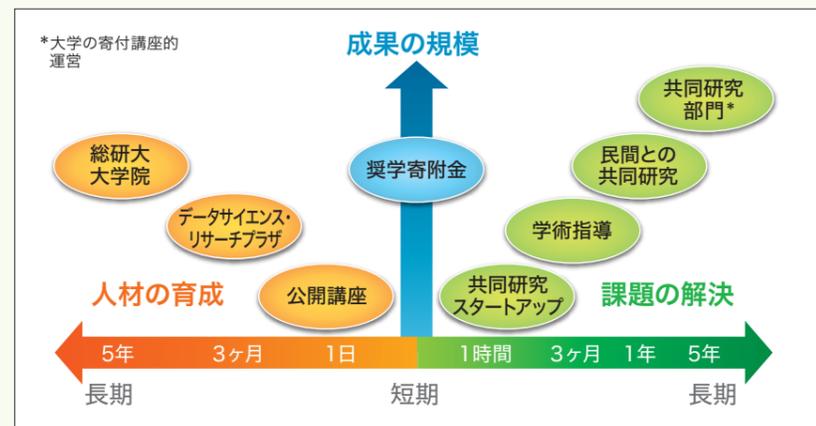
産業界との連携

本研究所は、学術機関として研究力を産業界に活かすために積極的に連携を推進し、これらの活動を通じて社会に貢献していきます。この連携のプログラムを紹介します。

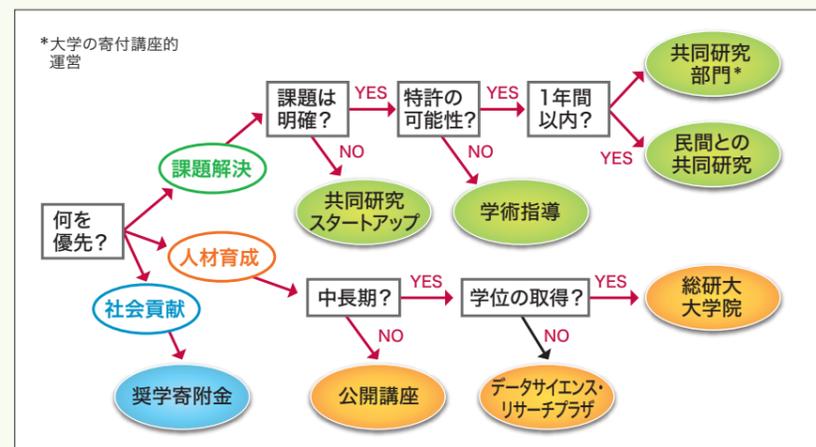
お問い合わせ先：ask-ura@ism.ac.jp (URAステーション)
<https://www.ism.ac.jp/sangaku/sangakurenkei.html>

目的	プログラム名称	概要	期間(目安)
課題の解決	共同研究部門	研究組織の新設による共同研究の遂行組織(大学の寄附講座的運営)	2～5年間
	民間との共同研究	課題の解決に向けた教員との協働	6ヶ月～1年間
	学術指導	面談を中心とした教職員による指導	3～6ヶ月間程度
	共同研究スタートアップ	面談による課題に関する相談	1時間から
社会貢献	奨学寄附金	研究所への寄付(教員の研究費)	(無し)
人材の育成	公開講座	社会人向けの統計数理の講座	1～4日間
	データサイエンス・リサーチプラザ	研究所内に社員の座席を確保	3ヶ月～1年間
	総研大大学院	博士の学位取得	3年(3年次編入学)または5年(5年一貫制)

統計数理研究所 産学連携関連プログラム 全体図



統計数理研究所 産学連携関連プログラム 選択基準



統計思考力育成事業：公開講座

本研究所では、2011年度から統計思考院を母体として、教育・人材育成機能を統計思考力育成事業として集約し、ビッグデータを活用したモデリングや研究コーディネーションなど大規模データ時代に求められる統計思考ができるデータサイエンティスト等の人材を育成するため、公開講座をはじめとする各種人材育成プログラムを展開しています。統計科学の最先端理論・手法から基礎的なものまでを学べる多様な一般講座の他、系統的な講座編成により現代的な統計科学の姿を示すリーディングDAT(Data Analytics Talents)講座を実施しています。また、医療・健康科学分野のデータサイエンスの方法論について、基礎から最先端のトピックまで学べる講座も開講します。

■ 一般講座

前期は3講座を開催。「Rによる時系列解析入門」、「スパース推定」は申込受付終了しました。7月より申込受付を開始する「多変量解析法」についてはホームページをご覧ください。

<https://www.ism.ac.jp/lectures/kouza.html>

■ リーディングDAT 講座

「L-A. データサイエンスの基礎」は9月開催予定です。後期には「L-B1. 統計モデリング入門」、「L-B2. 機械学習とデータサイエンスの現代的手法」等を開催予定です。詳細は7月頃に下記でご案内します。

<https://www.ism.ac.jp/shikoin/training/leadingdat/>

■ 医療健康データ科学講座

本邦の生物統計学領域の第一線で活躍する講師による講座を行います。2019年度は、5つの講座を開講する予定です。

<https://www.ism.ac.jp/rcmhds/course/>



公開講座の様子



● 研究棟1階
交流アトリウムの常設展示



● 物理乱数発生装置群

分散コンピュータ博物館／情報処理技術遺産

1954年に相関計算専用機FACOM415Aを導入するなど計算機の整備を行い、現在は日本の商用計算機第一号であるFACOM128や物理乱数発生装置など170点を超える機器が「統計数理研究所計算機展示室」に展示されています。



● 計算機展示室

隣接する計算機室ではスーパーコンピュータが稼働しており、統計科学からみた計算機の過去、現在を見渡すことができます。2016年に「統計数理研究所計算機展示室」が、一般社団法人情報処理学会より「分散コンピュータ博物館」に認定され、同時に「物理乱数発生装置群」が「情報処理技術遺産」に認定され一般にも公開されています。見学をご希望の方はホームページよりお申し込みください。

統計数理研究所計算機展示室
<https://www.ism.ac.jp/ism-tour/>

立川市は日本の学術中心都市！

立川市には17の大学共同利用機関のうち4機関があります。



統計数理研究所

確率・統計の理論やその応用に関する研究を行う機関であり、巨大データベースに関わる工学領域をはじめとして、統計科学、数理工学、機械学習、データマイニングといった『データ中心科学』の研究者が多数集結している日本で唯一の研究拠点です。



国立極地研究所

南極と北極に観測基地を擁し、極域での観測を基盤に総合研究を進めています。国内外の研究者に南北両極における観測基盤の提供、試資料やデータの提供を通じて極域科学を推進し、極域から地球の過去・現在・将来を探る研究に取り組んでいます。



国文学研究資料館

国内外の日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と資料の収集、整理、保存を行い、供することで、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備し、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。



国立国語研究所

日本語研究の中核的・国際的拠点として、外国語との比較、消滅危機言語・方言、日本語史、日常会話、日本語教育などの様々な観点から、日本語についての総合的な研究を進めています。また、その成果を広く社会に発信し共同利用に供しています。



大学共同利用機関とは？

- 国の研究機関で、学術研究分野を牽引する中核機関です -
- ・ 大きな装置や貴重な資料などを国内外の研究者に対し、共同利用に供して研究を支援！
- ・ 高度な研究環境で大学院生や研究者を育成！



立川市のキャラクター「くるりん」



多摩都市モノレール

玉川上水



国営昭和三十九公園



箱根駅伝予選会



立川駅前

立川市の魅力

- ・ 住みたい町 No.2 (同位に調布市・武蔵野市) - 東京都の若年層
- ・ 若者にとっては商業施設が充実した“にぎわい”の街
- ・ 高齢者にとっては自然が充実した“やすらぎ”の街

『平成27年度 立川市住民意識調査、東京都民意識調査』より

*上記調査は立川市と統計数理研究所の連携・協力に関する協定に基づき実施されました。

